

ペットボトルキャップ回収活動

14日（月）からボランティア委員会のペットボトルキャップ回収の活動が始まりました。

日本ユニセフ協会によると、年間150万人、約20秒に1人の子どもが、ワクチンがあれば防げる病気で命を奪われているということです。また、アフリカや南アジアを中心に、世界では約2000万人もの乳幼児が予防接種を受けられずにいます。

皆さんが持ってきたペットボトルキャップは、愛知県プラスチックリサイクル協同組合に所属する会社に届け、キャップはリサイクルされ、その売却した収益の一部が、『NPO法人世界の子どもにワクチンを日本協会』に寄付されます。日本協会はユニセフと連携して、世界のワクチン工場へワクチンを発注します。そして、世界各地の予防接種会場で、子どもたちにワクチンを接種できます。皆さんが持ってきたキャップ860個でワクチン1人分となります。今までに暁中学校は、ワクチン152人分にあたる、131150個のキャップを回収しました。

現在、新型コロナウイルス感染症のワクチンが作られている最中です。インフルエンザワクチンのように早く、誰もが接種を受けることができるようになってほしいと思います。ワクチンは、ウイルスや細菌による感染症を防ぐために、もっとも有効な手段です。ワクチンは、感染症の原因となるウイルスや細菌の毒性を弱めたり、なくしたりして、体に安全な状態にしたものです。ワクチンを接種すれば、感染症に対する抵抗力を作れます。

皆さんは、様々な予防接種を受け、病気から守られて成長してきましたが、世界には、命を守るために必要な予防接種を受けることができない子どもが大勢います。一人でも多くの子どもが予防接種を受けることができるように、ペットボトルキャップ回収活動にぜひ協力してほしいと思います。

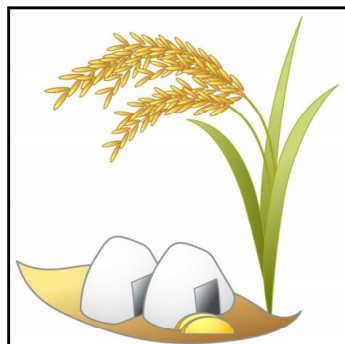


実りの秋

学校の周りの田んぼでは、稲穂が徐々に下に垂れてきて、お米が実りつつあります。日中は、まだまだ残暑が厳しい状況ですが、朝晩は秋の虫の声が聞かれるようになり、少しずつ過ごしやすくなってきました。これから秋へと季節は移り変わっていきます。

「実りの秋」という言葉があります。秋は、穀物や果物などの収穫が多くなる季節であることを表し、「実り」は、「努力してよい結果を得ること」の意味があります。努力することは、辛抱することでもあります。先日発行した『学校便りNO.13』で、「辛抱はいずれ実る」「人は辛抱して、困難を乗り越える力をつけることができる」と載せました。皆さん一人一人が目標をもち、努力と辛抱で目標を達成する「実りの秋」にしてほしいと思います。

前期終了まであと1か月程度となりました。体育祭や前期期末テストに全力を尽くすとともに、本校の合言葉である「時を守り、場を清め、礼を正す」「凡事徹底」を意識した生活で、前期をしっかり締めくくってほしいと思います。



※ 上の『ペットボトルキャップ回収活動』と『実りの秋』は、14日（月）に行った放送朝礼で、校長が話した内容です。